

定遠引揚げ作業と小野隆助

太宰府天満宮の社家出身で幕末より活躍し、衆議院議員・県知事を歴任した太宰府の名士小野隆助は、日清戦争で沈没した清国の北洋艦隊の旗艦「定遠」から数々の物品を引き揚げました。作業は明治28（1895）年7月より開始し、明治30年11月に終了します。

定遠には「鎮遠」という同型艦が存在し、両艦は北洋艦隊に配備されました。外務省の記録には2隻を「独逸ニ注文セシ砲塔甲鉄ナル定遠ノ如キ鎮遠ノ如キ何レモ七千四百三十噸ノ姉妹戦艦（中略）其頃東洋ニ於テハ観ルニ稀ナル者ナリ（後略）」と記しており、日本にとつて大きな脅威でした。

北洋艦隊は日本海軍の連合艦隊と黄海で衝突後、旅順港を経て威海衛へと後退します。その際に鎮遠は座礁し、定遠は水雷艇による夜間襲撃で大破します。鎮遠は威海衛で捕獲され日清戦争後に、戦利艦として日本海軍に編入されます。近代化間もない日本にとつて鎮遠は大きな戦力となりました。

北洋艦隊の引揚げ作業は日清戦争中に計画されました。それは海軍が造船技術・砲術などの調査研究として引揚げを求めたからです。その作業は複数の「引揚げ許可人」が回収許可を申請して行われ、小野は明治28年5月に許



可を得て「定遠号引揚げ許可人」として定遠を担当しました。引き揚げた武器・弾薬は海軍が買い上げました。そして引き揚げた物資の多くは、呉・佐世保・横須賀の海軍基地へ納められ、黄龍旗（清国の旗）と号鐘は宮内省へ献納されました。残りの一部は展示会や現在も太宰府天満宮境内に遺る「定遠館」の門や梁や床の柱などに使用されました。定遠館は小野が私財を投じて建設したものでその後、明治35年に太宰府

天満宮で開催された菅公一千年祭の際に黒田家主の黒田長成を迎える際にも利用されました。

日清戦争中、戦地で入手した兵器などは全国各地で「戦利品」として公開され、新聞を賑わせました。日清戦争後、福岡県下では神社・学校・博物館に配布され、太宰府には太宰府天満宮・竈門神社・建設計画中の鎮西博物館などに武器・弾薬の品々が戦利品として配布されました。

小野隆助は日清戦争後の明治29年1月25日から定遠より引揚げた戦利品の展示会を太宰府天満宮の会議所で開きました。また、明治31年にも太宰府の自宅にて引揚げ品を陳列して、公開しました。